

令和4年度 第1回
寒河江市総合教育会議
会 議 録

令和4年11月16日 開会

令和4年11月16日(水) 令和4年度 第1回寒河江市総合教育会議

○ 会議出席者

寒河江市長	佐藤洋樹		
寒河江市教育長	佐藤志津男		
寒河江市教育委員	鈴木淳一	國井晴彦	
	鈴木多鶴子	大沼賀世	

○ 事務局職員の職氏名

学校教育課長	今野育男	指導推進室長	大竹純
生涯学習課長	渡邊健一	スポーツ振興課長	渡辺智昭
総務課課長補佐	小関光彦	学校教育課課長補佐	佐藤芳朗
学校再編整備室長補佐	千葉大志		

○ 日程

令和4年度 第1回総合教育会議日程
令和4年11月16日(水)

午後3時00分 開議
寒河江市立図書館視聴覚室

1 開会

2 あいさつ

3 協議

(1) 寒河江市学校施設整備計画について

4 その他

5 閉会

1 開 会 午後3時00分

2 あいさつ (佐藤洋樹市長)

皆さんこんにちは。今日は令和4年度の第1回寒河江市総合教育会議ということでございます。前回は、1月28日に開催されていますが、第1回目がこの時期に行われるのが、はたして妥当なのかということ疑問に思うところですが、もっと早くてもいいのかなという気がしています。今回実施して、また1月に行うという、まあスケジュール感が理解できないようなところがありますけども、まあ、第1回目ということでありまして、新たに大沼委員に参加をいただいて、忌憚のないご意見を頂戴できればというふうに思います。なお、議事録を取っているという風に聞きましたが、自由な発言の場だということですので、感じていることや思っていることなどを率直に、ご意見頂戴できればというふうに思っています。今回は、前回に引き続いてになるようですが「学校施設の整備計画」ということについての、意見交換をさせていただくということになる訳であります。3年度に整備計画というものをまとめていただきましたが、ご案内の通り、いろいろ計画についてのご意見などが、市民の皆さん、あるいは地域の皆さん、関係者の皆さんから頂戴をしているということがあります。また、なかなか1月、2月、3月はコロナなどもあって、地域での説明会がままならなかったというような状況もあって、新年度になってから改めて、丁寧な説明を、教育委員会の方で行っていただいているということでもあります。そういった中で、いろいろ市民の皆さんからの声を頂戴して、さらにより寒河江らしい整備計画として見直す必要がある所は見直しをしていくというようなことで、今すすめているところである訳でありますので、そういった経過や状況をご説明頂いた上で、皆さんからご議論をいただいて、さらに練った計画として整えていくという作業になっていくのではないかと思いますので、ぜひ限られた時間ではありますが、忌憚のないご意見を頂戴できればと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げて、私からのあいさつとさせていただきます。今日はご苦労様です。

3 協 議 (座長：佐藤洋樹市長)

(1) 寒河江市学校施設整備計画について

○佐藤洋樹市長：

はい、それでは早速協議に入らせていただきたいと思います。次第に従いまして(1)寒河江市学校施設設備計画について議題に供したいと思っております。最初に資料を今野課長の方から説明をお願いしたいと思います。

○今野育男学校教育課長：

では資料をご覧になってください。座って説明させていただきます。

学校施設整備計画について、公立の小中学校は、学習の場であるとともに社会教育施設としての側面もあり、また災害発生時には避難所として活躍する多機能かつ重要な施設となっております。現在の学校施設は、一斉に更新時期を迎えており、また少子化による児童生徒の減少への対

策も必要となっております。次です。こちらは現在の学校施設整備のロードマップです。令和8年、小学校を新小学校①と新小学校②に統合する計画です。令和10年、中学校を1校に統合する計画です。令和13年、小学校4校の統合について検討を開始します。令和14年、陵東中学校跡地に新校舎を建設し、新小学校①と新小学校②の統合を計画しています。このロードマップは5年ごとに見直すことになってはいますが、現在さまざまなご意見をいただいておりますので、計画の一部変更も考えながら検討しているところです。

次です。説明会等の実施及び計画の周知について、地域説明会は合計18回行っております。また、PTA役員との小学校の検討会を2回、中学校の検討会は1回それぞれ行っております。保護者説明会は9回行っております。ホームページには以下の情報を載せております。

次です。これまでの説明会でいただいたご意見には以下の事柄があります。(1)市民への周知や説明不足。(2)小中学校の統廃合と地域の活性化、公共施設の配置の問題。(3)小学校を二段階で統合する場合に、小学校と中学校で統合が続くことによる子どもや保護者の負担増。(4)中学校の1校案に対して2校案の検討。これらについてそれぞれ説明していきます。

次です。(1)市民への周知や説明不足について。保護者や地域の意見をもっと聞いて計画に反映させるべきというご意見をいただきました。周知のために第1回地域説明会等の開催、説明動画の作成、未就学児の保護者への説明動画視聴案内、第2回地域説明会の開催、市議会での答弁に取り組んできました。様々なご意見をいただいておりますので、計画の一部変更も考えながら時間をかけて検討したいと考えております。

次です。(2)小中学校の統廃合と地域の活性化・公共施設の配置の問題について。これまでの説明会等でのご意見として以下のご意見をいただいております。一つ目、地域から学校がなくなると、地域が廃れるから統合には反対。二つ目、統合には賛成だが、時期を慎重に検討してほしい。三つ目、学校がなくなるということではなく地域の核がなくなる。四つ目、寒河江市全体で地域の子どもの育てていく考え方もある。などのご意見をいただいております。学校は地域にとって存在意義が大きく、地域の中心的な役割を担ってきた歴史があります。学校がなくなることにより地域が活性化を失うことがあってはならないと考えており、統合後の校舎の利活用を含め、市内全体のバランスを考慮した公共施設の配置なども検討していかなければなりません。

次です。(3)小学校を二段階で統合する場合、小学校と中学校で統合が続くことによる子どもや保護者の負担増について。現在の計画では令和4年度の小学2年生は、小学6年生の時と中学2年生のときに統合を経験することになります。7月には当該小学校の保護者説明会を実施しております。また当該小学校のPTA役員による検討会も2回行っております。以下のようなご意見をいただいております。一つ目、小学校の二段階統合は、子ども・親ともに負担が大きい。二つ目、もっと多い人数で切磋琢磨したりもまれたりしてほしい。五つ目、統合の必要性は分かるが次期を慎重に考えてほしい。六つ目、陵西学区に学校を残してほしい等のご意見をいただいております。

次です。小学校の統合についての検討案です。下の資料も合わせてご覧ください。案Aは現在の計画です。案Bは中学校統合後、令和14年度をめどに5校を1度に統合し、新校舎を建設する案です。案Cは中学校統合後、令和14年度を目途に西根小と三泉小を総合し、新校舎を建設。高松小と醍醐小、白岩小を現醍醐小学校の校舎に統合する案です。

次です。現在の案の統合時期について。令和4年度の小学2年生は、令和8年度に小学6年生

となり、小学校の統合を経験し令和10年度に中学2年生で中学校の統合を経験することになります。ここに、大きな負担があるとご意見をいただいたところです。そのため、案Bや案Cを考えております。

次です。これは西根小学校、三泉小学校の予想される児童数の推移です。これは複式学級が発生する学年を囲ったものです。三泉小学校でいうと、令和8年に統合がない場合は囲まれた学年同士がそれぞれ複式学級となる見込みです。なお令和5年の一年生からは寒河江学園の児童は含まれてはおりません。

次です。これは高松小学校、醍醐小学校、白岩小学校の予想される児童の推移です。

次です。白岩小学校の統合がない場合、醍醐小学校は複式学級が継続します。白岩小学校は令和10年度以降に複式学級が発生する見込みです。

次です。(4)中学校の1校案に対しての2校案の検討について。学校施設整備計画で1校案とした理由は、2校に総合した場合に、年数を経過するにともない陵東中と陵西中が統合した中学校は、現在の陵東中と同等の生徒数となり、令和13年には統合した中学校の生徒数が400人を切り陵南中との生徒数に不均衡が生じる懸念があるからです。統合時の生徒数だけでなくその10年先、20年先の生徒数の減少を見据えたことが一点目です。もう一点は教育資源等を1つに集中し、より安全安心で、より優良な教育環境を構築していくため1校案としたところです。

次です。これまでの説明会等でのご意見について紹介します。黒丸の一つ目、1校で資源を集中し最新の教育環境の下で学ばせたいので賛成。三つ目、1校案の大きな学校だといろいろな人と出会いが期待できる、成長できるので賛成。六つ目、1校だと子ども達に目が行き届かなくなるのでいじめや不登校が多くなりそうなので2校の方がいい。下から四つ目、スクールバスがあっても、冬場は渋滞の原因になるので1校案には反対。下から三つ目、2校案だと様々な活動や部活動等で競い合い向上心を促すことができるので賛成、等のご意見をいただいております。

次です。子どもたちにとって最適な学習環境、今後の児童生徒数の推移、財政上の課題、市全体のまちづくりの問題等を総合的に考慮し、学校の配置や中学校のあり方及び公共施設の配置等について検討しています。

次です。中学校統合についての検討案です。下の資料もあわせてご覧ください。案Aは現在の計画です。案Bは、令和10年度を目途に3校を統合し他の公共施設との複合施設を建設する案です。答申にありますように、学校を公共施設と併設または一体化することで、地域の人との接点が広がります。また駐車場等を共有することで敷地の有効活用が可能です。案Cは令和10年度を目途に陵東中と陵西中を統合し、新校舎を建設します。陵南中も新校舎を建設する案です。

次です。中学校1校に統合した場合、メリットとしては黒丸の一つ目、市内全生徒に均質で統一した学校環境を提供できます。二つ目、地元の寒河江高校と寒河江工業高校とのつながりを深め、進学やキャリア教育などの連携強化に取り組みやすくなります。例として中学生が高校の授業を見に行ったり、逆に高校の先生から授業を受けたり、放課後の部活動の交流を行ったりすることが考えられます。三つ目、部活動の選択肢が増えます。四つ目、まちづくりの観点と連動しながら、他の公共施設の連携や、学校と一体化した複合施設の建設を検討することができます。五つ目、各教科の専門教員が増えることにより、研修の機会が増え教員の専門性が磨かれます。デメリットとしては黒丸一つ目、人間関係が希薄化する場合があります。二つ目、一人一人が活躍する場や機会が少なくなる場合があります。三つ目、通学距離が長くなったり、スクールバス

の利用が必要となる生徒が増えます。特に冬期間の通学について心配されます。

次です。中学校を2校に統合した場合、メリットとしては黒丸の一つ目、各学年4～5学級で人間関係が作りやすいです。二つ目、生徒数から見ると現在の学校と変化が少ないので学校生活を送る上で、心理的な負担が軽減されます。三つ目、多くの生徒が徒歩ないし自転車で通学ができます。四つ目、スクールバスの台数が1校案より少なく済みます。五つ目、中学校が2校あることで競争心が醸し出されます。六つ目、2校にすることで災害時にリスクを分散させることができます。デメリットとしては黒丸の一つ目、一度に2校の改築は補助金の割合等の問題もあり、財政面で負担が大きいです。二つ目、令和13年には2校間の生徒数の格差が大きくなり、再統合を検討する可能性も見込まれます。三つ目、生徒数の減少により教科によっては専門教員の数が十分と言えなくなる場合が考えられます。

次です。これは市内3中学区の令和3年時点の生徒数の推移です。生徒数が減少していきます。

次です。これは統合中学校の生徒数の推移です。1校案は開校当初は987人ですが、6年後には101人減少し、886人となる見込みです。2校案の場合は、6年後には2校の差が、158人と広がる見込みです。

次です。令和10年の統合中学校の生徒数、教員数の見込みについて。3校統合校の方が担任外の教員の人数が増えます。教員が増えることで、より多くの目で生徒を見守り、多様な評価ができ、個に応じた指導をすることができます。担任外の教員の役割については、通級指導やサブティーチャー、特別な支援を要する生徒への対応等が考えられます。授業中は各教室に一人担任がいる訳で、授業中に担任外の人が多いと、それだけいろんなことに対応することができます。

次です。統合中学校の建設について。計画では市内の3中学校を統合して新校舎を建設し、その後、陵東中の跡地に統合小学校を建設する予定ですが、現在検討中となっております。なお、学校と他の公共施設の複合化も選択肢の一つとして検討しています。2校案の場合は、陵南中の新校舎建設と、陵東中と陵西中の統合中学校の新校舎の建設が必要となります。その場合、新たに統合小学校の用地選定が必要となる見込みです。建設費の参考としましては、6年前に4校から1校に統合した高畠中の建設費の合計は約50億円となっております。

次です。寒河江市では第2次寒河江市教育振興計画基本目標として、「ふるさとを愛し、寒河江から夢のある未来を切り拓く人づくり～共に学ぶ ともに育む～」を掲げ、ふるさと寒河江を愛する心を持ち、様々な変化も予想される社会の中で夢のある未来を切り拓いていくたくましい人、共に学び、共に育みあえる社会を作り上げられるような人、このような人を育てようとしています。

次です。現在の取り組みとして、ふるさとへの愛情と誇りを育む教育の推進では、地域の歴史や文化、自然を活用した教育活動を行っています。例としては、総合的な学習の時間の中で、ふるさと学習や地域探訪等の学習をしています。学びの充実と確かな学力の育成について、教員の授業改善のため、研修や児童生徒の多様な学びの場の設定を行っています。キャリア教育の推進として、具体的にさがえっこライフデザインセミナーや、さがえ未来コンソーシアム、職場体験学習等を行っています。特別支援教育や教育相談機能の充実として、幼稚園、保育所等との連携、特別支援コーディネーター等との校内体制の強化を行っています。以上で説明を終わらせていただきます。これまでの経緯やご意見等を受けての検討案として説明をさせていただきました。よろしくお願いたします。

○佐藤洋樹市長：

何を議論すればいいんですか。

○今野育男学校教育課長：

次第に、話し合いの方で「これからの学校をどうするかについて」と、「ふるさとを愛し寒河江から夢のある未来を切り拓く人づくり～共に学ぶ ともに育む～」を踏まえた学校の姿と検討案について、その2点ありますが、ぜひご意見いただければと思います。

○佐藤洋樹市長：

基本的には1月に議論した訳ですよ。今改めて、年度明けてからもいろいろ説明会をしていたで、そこでいろんなご意見を頂戴して、それを踏まえた「見直しの案」的なものを先程小学校について、それから中学校についてもありましたけども、前提としては、いろんなメリット、デメリットについても、これまでも基本的に検討されてきたというふうには思いますけど。そういう新たな要素が出てきたのかどうかあれですけども、そういうものを踏まえて、このような説明会での議論、ご意見なども踏まえて、今回の検討案、小学校から中学校について、委員の皆さんからもご意見など頂戴するということですかね。では鈴木委員の方から。

○鈴木淳一委員：

それでは私の方からですが、我々教育委員は小学校9校、中学校3校を毎年訪問している訳ですけども、前回の話し合いから半年以上経ったということで、また新たに感じたことなどを踏まえながら、お話をさせていただきたいと思います。

佐藤教育長をはじめ今野課長には、多くの説明会や検討会を開催していただき、本当にありがとうございます。私の周りでは、少子化で子どもが少なくなっているってことは十分わかっていますが、老朽化した学校の状態とか、ギガスクールとか、寒河江市内の学区の隔たりとか、コミュニティ・スクールとか、まだまだ認識が低いんだなというふうに感じています。また「学校がなくなると不安だ」ということをよく聞きますけれど、私の十年来の友人に、震災で被災し、未だにふるさとに戻れていない方がいるのですが、その方に学校が無くなる事について聞いてみたところ「俺たちと比べたら、ずっとまだ」とおっしゃっていました。また、いろいろ知恵を出して、クラウドファンディングとか、ニーズの高い温泉施設とか、空き家対策なんか、いろいろ頑張っていけばいいのではないかと、というご意見を頂いた経緯もございます。

私たちは日々心配事が絶えない中で暮らしています。コロナも3年目ということですが、まだまだ無くなっていません。子どもたちの環境も様変わりをしてきています。小学校で英語の授業が行われたり、一人一台のタブレットについて、ある学校では学級閉鎖中であってもオンラインで授業をしたりしています。「学びを止めない」という素晴らしい取り組みが、いち早く行われている寒河江市は素晴らしい町だなというふうに感じています。あと、中学校部活動の地域移行の問題や、大会のあり方などについて、気がかりに思っている方もいらっしゃるようです。それから、携帯電話の所持率についてですが、少し前までは、高校入学してから買い与えるというのが多かったのが、今では小学生の所持率も高くなってきて、中学生なんかはもうほとんど持っている

いう話を聞いたこともあります。学校には持っていかないとは思うんですけど、社会が変わってきているというふうに感じました。

学校整備計画についての意見を、ネットでも拝見をさせていただきました。私の知る限りですけど、保護者の中には、「もっと早くしてほしい」という方も実際いらっしゃるようです。検討を重ねて、さらに良い方向に持って行くというのもあると思うんですけど、そういった方もいるということをお知らせしたいと思います。あと、市民の方から最も多く聞く話が、「最終的にどうなるんだ」ということ。そして「建設場所が気になる」ということ。次に多いのが「陵西学区をどうするんですか」ということ。それか「中学校だけでなく、小学校もそろそろ建て替えが必要な所もあるのでは？」という話です。そして「スクールバスって、年間いくらくらいかかるの？」という話から「高齢者も使えるようにしたらいい」とか、学校の計画から町づくりの話まで、いろんなところに話題が波及して、町づくりを考えてくれる方が増えているんだなというふうに感じます。子育てが終わった世代の方も真剣に考えてくださっている方がたくさんいるんだなと感じました。

話は変わりますが、学校の整備計画が話し合われている中であっても、子どもたちにとって最適な学習環境を整えるため、毎年寒河江市では丁寧な補修工事をしてきているなと感じています。特にLED照明への交換については、早急に動いていただいて、すごいなあというふうに思いました。あと教室のサイズも、やっぱりちょっと小さいなあというふうに思いました。逆に机のサイズは大きく変わってきているということを学ばせていただきました。山形県では、「さんさんプラン」ということで、33人1クラスということをお聞きしてはいますが、この前、西根小学校を訪問した時に、新しい1年生の教室に37個机がございました。暖房器具をボイラーからエアコンにすることで暖房器具を外し、また後ろのランドセルをしまう棚を外して改造しながら学校の教室を作っているということでした。でも、電子黒板など教室に入れたら、さらに狭く感じるんじゃないかな、というふうに見えました。柴橋小や寒小のようにオープンスペースだとそんなことは少しも感じないと思うのですが、パソコン教室や理科室などを改装したりして、余裕のある教室なども必要になってくるのではないかなというふうに思います。

さて、資料の中にあるように「学校がなくなると、地域が廃れる」というご意見があったようです。これまで寒河江市では幸生小、田代小の閉校がありました。それぞれ、保護者の方からお聞きしたのが「多くの子どもたちと学ばせたい。地域は大切だけど、これからの子どもたちの人生の方が大切だ。」とお聞きしたのを覚えています。「10人以下での6年間より、30人、50人、100人と同じ時代に生きる友人たちとの関わりの方が大事だ」ということもお聞きしました。それぞれの小学校は、閉校して白岩小と統合になった訳ですが、この間、白岩小学校に訪問した時に、田代地区へ出向いて探検授業を行ったり、幸生地区に行くと銅山や森の探検などの校外学習を行ったりしていることをお聞きしました。それぞれの地域に住む方々も、大きな白岩地区の子どもたちの指導役として、学習に関わってくれているということもお聞きしました。自分の住む地区以外の地区の歴史や伝統を知る機会をもっているというのは、白岩小学校だけの特徴だと思いました。やはり、小さな集落という考えではなくて、同じ白岩地区の一部だという心の持ち方っていうか、そこに住む人たちの気持ちの変化というのが大事なんじゃないかなというふうに思います。

資料の13ページ、15ページですが、やはり各学校の一年生の児童数の推移というものが気になります。また、8年後に統合の計画が組まれています、10年後の14年度の検討案もな

されました。そうすると、令和8年度からの統合を希望する保護者と、令和14年度からの統合を希望する保護者がでてくるのではないかと思います。また、今後少人数でクラス替えができない学校や、複式学級になる学校が出てくるようですので、急ぐことを望みますが、慎重に決めていかなければならないことだと思います。

中学校についてですが、B案の新校舎に「まちづくりと連動した他の公共施設」とあります。よくイメージされるのは、文化センターのような大ホールを併設して、卒業式を行うとか、そういったイメージなのかもしれませんが、これも実現できればいいかなと思います。これは私の希望なのですが、ぜひ「ドーム型運動施設」というものを望んでおります。以前、國井委員から「中学校を中心とした街づくり」「コンパクトシティ」といった話があったので、そういうものがイメージしやすいのかなと感じています。

最後に、17ページにPTA役員の方のご意見がありますが、ここに「2校案は財政面で大変。将来の子どもたちに負担をさせるのは不安」とあります。私も「確かに、そうだな」と思いました。高島中学校の建設費も出ていましたけれども、その費用×2ということを考えれば、どういったものなのかなと思いました。また、最終的に賛成反対の多数決というか、アンケートを行ってデータのまとめるのか、そういうことも考えながら、早い段階から検討していかなければならないかなと思います。結局、建物を建てるのが大事なのではなくて、寒河江市の未来ある子どもたちのことを第一に考えるべきだと思います。我々大人も含めた地域の方、また企業とも連携して二重三重の輪っかで、子どもたちを守っていければと思います。そして寒河江の子どもたちには、明るい未来があってほしいと思います。以上です。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございます。いろいろご提案、疑問点なども出ましたけど、後ほど教育長の方から、まとめてスケジュールとか意見のまとめ方をどうするんだというようなことについてお願いします。では、鈴木委員。

○鈴木多鶴子委員：

わかりやすい資料、メリットデメリットを整理したり、あと児童生徒数の数の変化とか、複式学級になるっていうような分かりやすい資料ありがとうございます。あと、寒河江市立学校のあり方検討委員会、そして多くの人に計画が行き渡るように、地域説明会をはじめ、幼児・小中学生の保護者、それから様々な立場の方などの多くの意見が聞けるように説明会を開催してくれたことに感謝いたします。その回答、意見を見るにつけ、やっぱりそれぞれの地域だったりそれぞれの立場だったり、様々な意見が出ているなあっていうふうに思います。小学校については三泉小、醍醐小、そして令和10年には白岩小学校も複式になるようなので、他の学校と比べて、子どもの数がすごく少なくなることに對して、そこに入学する子ども達の保護者の方は、どういう思いを持つのかなと思います。「早く総合して欲しい」という保護者の方もいれば、「このまま複式でもいいから存続して欲しい」という保護者の方もいると思うんですけども、それがどれくらいの割合なのか。もしかして、子どもにとってそのままの方がいいのか。それとも、早く統合してあげた方がいいのか、っていうところが本当に悩ましいと思います。その時に、中学校の統合を考えると、やっぱり小学校でも統合経験して、中学校でもまた統合を経験するっていう

ことに対して、子どもはどのように感じるのか、その辺が難しいところなのかなあとと思います。学校が統合した場合、すぐなじむ子どももいるかと思いますが、保護者にとってはそういうことは避けたいなという思いがあるのかもしれないし、その辺もまた、決定するにあたって難しい点なのかなと思います。できれば、統合は一回で済んだ方が心的な負担は少ないのかなとも思います。あと、中学校の統合については1校案と2校案とで分かれてくると思います。それから教育委員会の方で、新たに提示してくれた公共施設とのタイアップということがありますけれども、私としては中学校の校舎を考えると耐震工事もできていますし、冷暖房の設備も各教室に配備されていますし、トイレの改修も進んでいますし、もう少し今の校舎を維持できるのならば、令和10年に千人規模の1つの中学校を作るのではなく、3つの中学校を統合するのであれば、もう少し人数が少なくなった時に統合しても遅くないのかなというふうに考えます。やっぱりそれというのも、21ページに書いてありますデメリットに関してすごく心配な点があります。このデメリットの解決策の提示がない限り、非常に心配だなあとと思います。その解決策について、教育委員会ではどのように考えているのかもお聞きしたいところです。それとは別に、今の校舎が本当に使えないという場合には、新しい校舎を建てることになると思いますが、2校建てるのは厳しいかなあとと思うと、1校にせざるを得なくなるのかな、という気もいたします。その時には、鈴木淳一委員が言ったように、公共施設とタイアップして、先程開催された教育委員会で、「今後の図書館についてアンケート調査をしている」という話がありましたが、もしかすると、その公共施設の中に文化センターだけでなく、そういう図書館の併設なども可能になってくるのかどうかですけれども、その新しい中学校の周りに文化施設、体育施設があり、そして中学生はさまざまな公共施設を利用しながら教育環境というか、教育が行われるのであれば、ちょっとイメージも変わってくるのかなと思います。千人規模の中学校というのが、想像しても心配ばかりが多いんですけれども、そういった上手くいく方法、それから、寒河江市の街づくりにおいて、こんな青写真を描いているんだっていう未来予想図が、私も含めて市民の方々がワクワクして描けるのであれば、それもいいのかなっていうふうに思っています。

またこれも、先程、鈴木淳一委員が言ったように、若い人たちがいろんな予想図を立てて、「こんな中学校や、こんな公共施設があれば、未来は希望が持てる」というような話をしていたので、もしかするとそういった話し合いというか、「こういった寒河江市の街にしていこう」とか、公共施設、学校も含めてですけれども、そういった話をワイワイと話し合いながら、自分達で未来の予想をして、寒河江を作っていくのであれば、市民の皆さん、若い人たちも希望の持てる寒河江になっていくのかなっていうふうに思ったりもしています。それから1つの中学校にするのであれば、このデメリットに対する解決策をしっかりと明記しておいてほしいなあとと思います。

「こういうような方法でやるから、多くの生徒になっても心配ないよ」という「こういう対応を学校でします」「こういうふうに市では対応します」「教育委員会では対応します」というような明記をしておかないと、計画を作った時にはそういうつもりであっても、実際学校ができた時に違っていた、なんていうことのないように、それをしっかりと明記しておいていただきたいなと思います。

それから最後に、地域づくりについてですけれども、ここで小学校の統合案にも関わってくるのですが、西根小・三泉小の2校統合と、高松小・醍醐小・白岩小の3校統合にするのか、5校統合にするのかという問題になってくるんですけれども、私はできれば、それぞれの地域の学校を

残してほしいなあと思います。今、コミュニティ・スクールを寒河江小でも頑張っていてやっております。地域を巻き込んでの教育、子どもたちとの交流、いろんな体験活動、それを今、盛んにやっております、それで地域の活性化にもなっています。ですので、できたら、西根小・三泉小の統合の学校、高松小・醍醐小・白岩小の統合にとどめておいてほしいなあと思います。それから地域づくりにおいて大事なことは、やっぱりそういう地域の核となる学校も大事なんですけども、人づくりが大事になってくるのかなと思います。その人づくりにおいては、地域のリーダーを育てる、やっぱりそのリーダーが核となって、地域を活性化している姿をよく見ます。これが廃れないように地域に学校を残して、その中で地域のリーダーを育て、次の世代の若い人たちが地域を活性化していくっていう流れを作ってほしいなあと思います。それから、先月ですけども、「寒河江で落語」ということで、地域の人たちと落語のイベントが企画されました。その時には若い人たちがものすごく活躍して、人的ネットワークも含めいろんな準備、本当に素晴らしいものがありました。そこに、その上の世代の人たちも関わりながらイベントをやったことは、縦の繋がりにもなりますし、地域の活性化にもなったに違いないと思っています。そういう若い人たちの活躍の場をどんどん作っていかねばいけないなと改めて思った次第です。若い人たちのアイデアや行動力は本当に素晴らしいものがありました。そういったものを、今までのやり方とは違った形でやっているんですけども、そういったことも地域で認めながら、どんどん伸ばしていかねばいけないなと思いました。その中のメンバーにも、日本にとどまらず世界で活躍する若者たちがいます。寒河江から世界へ、寒河江の良さや日本文化を発信して活躍している人がいます。そのほかにも、市内や県内外で活躍している若者たちはたくさんいます。そういった人たちのノウハウや人脈を使って、寒河江に呼び込んだり、イベントなどを通して地域の活性化をしていくのも大事になっていくのかなと思います。それぞれの寒河江の中の地域のコミュニティも大事ですけども、そういう人の力を使った興味関心を持って集まるコミュニティっていうのも大事にしていかねばいけないなと思います。

あと、今日の午前中、山形大学で「命の講話」の講義をしてきたんですけども、その中で学生さんに伝えたことが、「生きていて良かった」って思えるのはどういう時なのか。それは、「他の人から、まずは大切にされること」だろうと。地域でも学校でも、それを実感できなければいけないなというふうに思いました。「人に大切にされた」「地域で大切にされた」と経験した人は、次の人達を大切にしていけると思いますし、「この中でやっぱり生きていてよかった。あの人の為に頑張ろう」というふうになると思います。それは根本的なことですので、その根本的なことを感じるような学校づくり、地域づくりをしていかねばいけないなと改めて思っているところです。以上です。よろしくお願いします。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございました。では大沼委員よろしいですか。

○大沼賀世委員：

私は今年度の9月から教育委員をさせていただきましたので、学校への訪問は、2か月間で5校しか伺えなかったんですけども、その中でも、特に小規模の学校では、生徒は少ないんですけども、地域に根ざして密着して共同学習とか体験学習を行っているという印象を受けました。

そして寒河江市では、市内どこの学校でも I C T機器とかタブレットの導入が非常に早かったので、ほぼ全ての子どもたちが自由自在に扱っている様子を、本当に感心していつも見ております。また、それに対応する先生たちも、常に学習していくことが大変だろうなと感じています。私は実家が鶴岡なので、鶴岡に姪っ子が2名おまして小学校の話とかをよく聞きますが、「寒河江が進んでるね」っていつも言われます。寒河江市でタブレットが導入された頃は、鶴岡の方では、まだそれほど進んでいなかったもので、「寒河江はすごく進んで素晴らしい」ということを言われています。また学校訪問の中でも見かけるのですが、欠席した生徒ですとか、例えば学級閉鎖があった場合などにも、オンライン学習を受けることができるというのは、「ゆっくりお休みだ」と喜べないということはあるかもしれないですけども、子ども達にとっては、授業が遅れずに進めていけるので本当に素晴らしいなあと思っています。電子黒板なども整備されて、そこに子どもたちみんなの意見を載せて、みんながそれについて討論をしたりしていました。これからの学校教育もどんどん進化していくのだなあと感じています。

学校整備計画の説明も、説明会を頻繁に開いていただいて、多くの方から寄せられた意見を拝見すると、非常にいろいろな思いが伝わってきます。小学校の統合に関しましては、生徒数の推移を見ていると、本当に複式学級が増えていく学校に関しては、早めに対応が必要だなあというふうに思いました。ですが、これまでのご意見にも出てくるように、「地域の学校がなくなってほしくないです」とか、そういう意見を考えると、学校統合は自然的ではあるけれども、それが複数回に渡るのは子どもにとっても、親にとっても精神的にも生活的にも負担になるのかなと思います。今回のロードマップもいろいろと意見を取り入れた中で進化したマップを作っていただき、拝見いたしましたけれども、9ページあたりのところなんですけれども、うちは長女が小学校5年生なので中学校の統合にも小学校にも該当しないんですけれども、ちょっと聞いてみたところ、「今より友達が増えるというのはすごい楽しみだ」って言うておりました。そして、それがもっと大きくなって1000人規模の学校とかになったらどう思う？って聞いたら「もっと友達がいっぱい増えるから楽しみだ」と言っていました。うちの長女は、結構ポジティブな性格なのかもしれないんですけれども、案外大人が心配しているほど、子どもはそんなに心配していないかもしれません。とはいえ、全員が全員そうではないので、そういった不安がある子どもに対しての対策というのは欠かせないと思っています。ちょうど先程、学校だよりをいただきました。今年度醍醐小学校で、授業の一環として児童が慈恩寺の観光ガイドをして大成功したということが載っておりまして、新聞などでも拝見しました。寒河江を代表する慈恩寺を自分達、そして寒河江の宝として誇りを持って、慈恩寺について調べたことを、観光客の方たちに伝えるというのは素晴らしい取り組みだなと思いました。精神文化を今に伝える多くの文化財を持つ慈恩寺は、本当に寒河江にとっては大事な歴史文化の拠点であり、観光施設と言っはいけないかもしれないんですけれども、観光の大事な要だと思っています。今、官公庁でも観光教育という言葉を目にするようになって、小中学校にも広げていくというのを見ました。もし醍醐小学校とか、陵西地区に学校が残るのであれば、そういう観光教育の拠点という取り組みもいいのではないかなと思いました。また、ちょうど日曜日に、NPOのグランドワークが主催するマコモダケの生育とホテルに関しての生態系の勉強会がありました。ちょうど慈恩寺のあたりとか、あと醍醐小近くのピオトープを使ったり、生態系は一つだけではなく、全てが関連して成り立っているという話。参加した子どもたちも興味深く聞いておりました。そういう環境に関した教育も、やはり自然を守

る、里山を守るということも非常に大事なのかなと思っています。案をいろいろ出していただいたんですけども、そういった意味では、Cの醍醐地区の校舎が使われるのが、場所的には良いのかなと思っています。

中学校ですけれども、24ページの表で見ると、この先の子どもたちの数の推移を考えると、現在は2校にするとちょうど同じぐらいの生徒数ですが、どんどん減っていくということなんですけれども、減った時に1校統合を考えるというのもいいんじゃないかと言われたこともありましたけれども、他のいろいろな関連、建物の老朽化などを考えたり、整備のことを考えたりしたら、1度に1つにまとめて、マンモス校というのも寒河江の目玉になるのかなと思います。今、県内で確か一番大きい山形十中が688人ぐらいだったかと思うんですけども、それよりもはるかに大きい1000人という規模は、子ども達にとっては本当に多くの出会いを生みますし、いろいろな考え方を持った人、いろんな得意なことがある人が集まるとというのは、非常に切磋琢磨しあえる良い環境になると思います。またこれからの将来の子どもたちのことを考えると、視野は学区だけにとどまらず、寒河江市、またそれから先程お話もありましたけれども、国内、世界へとどんどん広めていかなければならないと思いますので、そういった時に一つの励みになると思います。三本の矢という話ではありませんけれども、たくさんの生徒が集まることは、寒河江市の強みになって力が結集されると思います。

部活に関しては、地域移行の方はどうなるのか、ちょっと想像がつかないんですけども、いろいろな先輩・後輩・同級生と出会えたり、そういったことが将来大人になってからの宝物にもなると思います。その中で他の公共施設との併設という案もありました。そういう学校があるのかなと思って、少し調べてみたんですけども、文科省でもそういったことを推進するための勉強会なども行われているようで、公共施設と併設されている学校が、全国にあるようでした。中でも図書館ですとか、体育館また市民プールですとか、そういったところと併設した場合には、その維持費ですとか管理が軽減に繋がるということも書かれていました。また、高齢者施設などと併設しているところもあったようなんですけども、そういった所では、世代間の交流ができるということも書かれていました。公共施設と一緒になればそれこそ、体育館とか、そういった施設を使ったり、地域の人と交流する場がもっと増えると思います。多くの大人目や人の出入りがあることがコミュニティ・スクールの活動やキャリア教育、いろんな人がいるということにもつながると思います。いろんな選択肢も増えると思います。そういった意味で、大きい学校のデメリットのフォローは必要ですけれども、デメリットばかりでなく、これから考えた時にそういったプラス面が多いのかなあと私自身は考えております。

学校が新築される際には、ぜひ環境やエコの観点から、例えば太陽光発電ですとか県産木材使用とか、そんな学校が出来たら素晴らしいなあとと思います。環境に配慮したエコスクールという言葉も耳にします。施設そのものが、環境教育の取り組みの1つになるのではないかなと思います。

余談なんですけれども、私は鶴岡市の出身なんですけれども、鶴岡市では今度、中学、高校の一貫校ができるということで、その時にも話題に出ておりましたが、鶴岡市には江戸時代の藩校「致道館」という学校があります。その教育は徂徠学という荻生徂徠の学問を取り入れて、自発学習ですとか天性重視、個性伸長という特徴を持っていました。江戸時代の昔の話ですけども長所を伸ばすことが第一、先生は教えすぎないように自学自習のゼミナール方式で討論を行った

り、そういった学問が江戸時代から行われていました。また家の格ですとか身分にかかわらず、年に4回の試験によって実力のある人は進級したり、また飛び級という制度もありました。これを聞いた時に、本当に今の教育に通じる部分、もしくはそれを江戸時代からやっていたということはすごいなと思ったので参考までにご紹介したいと思います。

大勢の中で学べる小学校の友達や同級生が増え、先輩や後輩が増え、中学校もそういった中で人数の多い中で学べるということは、子どもたちのたくましさも育てることができると思います。ですので、小学校も中学校も統合に関しましては、私としましては、保護者としての思いなんです。「楽しみ」というか「どういう学校になるのかな」とか「全国に誇る取り組みを行う先駆けの学校になってほしいなあ」というふうに思っています。あと、学校が大きくなれば先生や支援員も増えるということで、いろいろ問題が起きたときに、先生方や支援員の方、そして様々な役割の学校の方や地域の方、そして家庭の保護者の方との連携によって、乗り越えることができると思っています。ぜひ新しい統合が素晴らしい取り組みになるといいなと思います。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございます。では國井委員。

○國井晴彦委員：

まずは、前回のこの会議の時に、私がどういうことを申し上げたかと言いますと、学校の統合に関しては、中学校は1つにして、そこにいろんな設備、予算、先生等の人材を集中して将来の寒河江を作るような人材を育てていくべきじゃないか。そして小学校はできるだけ地域に残してあげて、地域とともに地域を支える子どもたちを残していく。そしてですね、中学校を1つにした場合、学校が建つと徐々に街も出来てくる、スーパーとか商業施設も出てくると思うんですが、そこをですね、中学校を中心としたコンパクトシティとか、SDGsとかカーボンニュートラルを考えたまちづくり、その辺もしっかり考えた中学校を中心とした新しい街を作って、「こんな中学校、こんな素敵な街だったら、私はこの街に住んでみたいな」と、都会からも人が集まってくるような街にできないかなというふうに申しあげました。と同時に、今までは教育委員になる前から、例えば全天候型の陸上競技場は作ってもらえないのか、人工芝のサッカー場は作ってもらえないのか、という風なお願いを単独でやってまいりましたが、そういう複合的な設備を作って、魅力的な街、そこにICT教育も含めた戦略的な教育、あとスポーツ施設を作って将来のノーベル賞候補、メジャーリーガーが出てくるようなそんなことを予感させるような街にしていきたいなというふうに申しあげました。と同時に、例えば陵西学区であれば、学校が少なくなっていったって、寂しくなっていくんじゃないかというふうなことです。やっぱりそこには、何か特別な、人の集まる施設、教育施設、それも全国世界から人が集まってくるような施設を作って、別な意味の賑わいを作っていくべきじゃないか、というふうに申しあげました。

そういう中で今回の学校施設計画を拝見したとき、1校案に関しては私が申しあげたことと、少し近くなってきたなと、そういうふうに思いました。

説明会においては、いろんな意見が出ているというふうにお伺いしております。もちろんその地域の事情もありますし、子どもたちの「いる」「いない」とか、考え方もさまざまあると思うんですが、反対の意見が結構出たという中で、私もいろんな方に聞いてみると、賛成の人は意外と

そういう説明会には参加してなくて、参加する気持ちもない。どちらかという、反対派の人だけが集まっているという状況になっている。実はこの前、とある講演会で「サイレントマジョリティ」という話を聞いたんですが、黙ってる大多数の人の意見、そういう方の意見もちゃんと読まない、その民意っていうか、そういうものが分からなくなるよ、と。そういう中では、私の肌感覚で、私個人の感覚なのですが、かなりの方が、中学校に関しては1校案っていうふうな形を考えているように感じておりました。

あとですね、いろんな方の意見が、ここにもまとめてあるんですが、一番残念だったのは、私も教育委員会に申し上げたんですが、小学生はともかく中学生、高校生、大学生、近々中学校に在籍した人の意見っていうのがほとんど反映されてない。どちらかという、年配の方による年配の方のための学校整備計画のような気がする訳ですね。今、子ども達に求められるのは、例えば、世界に出て求められるのは、やっぱり自分の意見をはっきり言うこと、そして人前で堂々とプレゼンテーションすること、なぜこれが正しいかと。寒河江市の学校はどうするべきかということ、小学生はともかく中学生、高校生、大学生にもっと語り合ってもらった方がいいと思うんですね。で、我々がいくらしゃべっても、我々は間もなくいなくなるんですよ。もうちょっと、ここに若い人の意見を反映させてもらえないかと思います。やっぱり現役の中学生はどう思っているのか、自分の街に住んでる所から中学校がなくなれば、本当に廃れて嫌だと思えるのか、それとも先程大沼委員が言われたように、なるべく多くの人たちと触れ合いたいと思っているのか、そこをですね、もうちょっと聞いた方がよかったかなと。もっと面白い意見、はっきりとした意見、ある地域が廃れるっていうことに対しての意見が、もうちょっと違ったものが出たんじゃないかなというふうに感じました。今後もですね、いろんな意見が出るとは思いますが、私はやっぱりそういう中高大学生の意見も集めて、意見を活発に戦わせるような、意見の交換会をやっていただけないかなというふうに思いました。

あと学校訪問とかさせていただいて、やはり、寒河江市の場合はICT教育というか、やっぱり早期にタブレットを子どもたちに渡したということで、非常に進んでいる成果が出てきているなというふうに感じました。先日、白岩小学校を訪問した時に、小学校一年の子どもがたまたま一人欠席で、タブレットで授業を受けておりました。それがですね、小学生なのに、まるで教室にいるように、他の子どもたちの会話の中に入れちゃう。すごいと思いました。これがこの先、小学校中学校と進んでいったら、また違った環境で、そういった事が出来るようになってくるのかな、というふうに思いました。一方、リモートでずっと学校に来ないで、授業を受けるのが当たり前な世の中になると、不登校と登校の差って何なんだろうとか、進めば進むほどいろんな疑問もわいてくるな、というふうに感じました。これからタブレットを使った教育を、やればやるほどいろんな問題もでてくるだろうし、同時に先生方のスキルもどんどん上げていっていただかないと、なかなかうまく回っていかないと思うし、できるのならば、できる子はどんどん前に行けるような、前も申しあげましたが、大沼委員も言っていましたけども、もちろん「飛び級」は実際には出来ないんですけども、「どんどん先に行っちゃっていいよ。先生が教えることの上まで行ってもいいよ」というような形もできるようにしていければ、タブレットを導入した成果になるんじゃないかなというふうに思いました。

今日の山形新聞に「山形の高校生を世界へ」という記事があって、先ほどの話の「学校が無くなれば地域が廃れる」という一方で、こういうふうに、「地域を飛び出して世界に行けよ」と、こ

ういうことを言う山形出身の若い人がある。そこに奨学金を出す。できれば寒河江市もそういう形で、「世界に行くんだったら奨学金とか出すよ」ということで、「どんどん交流して、それを寒河江に持ってきてくれ」と。同時にその力で、地域をインターナショナルな街にしてくれよと。そういうことを考えられるプログラムができないかなというふうに思っています。私今回、寒河江ロータリークラブの会長もやらせていただいているんですが、実は私の娘が、いま留学するということで、ある山形市の高校で話をしていたら、担任の先生と喧嘩になりまして。なんでかという、先生が「留学なんか行っても何もならない」みたいな話をするもんですから、他の父兄がいる前で大声で喧嘩になってしまいました。やはり、かなりですね、現場のこういう感覚というのはズレがかなりあるな、というふうに思っていますし、やっぱり「成績さえ上がれば」という雰囲気というか、もちろん成績は大事だと思いますし、勉強ももちろん大事ですけど、もっと違った人生経験というか、心の豊かさとか、視野の広さとかそういうのをですね、タブレットが入った機会に、知識の伝達をするだけじゃなくて、人生とか、世界の大きさとか、義理人情でも何でもいいんですが、タブレットだけでは教えられる教育をしてくれる先生に、ぜひ育って行っていただきたいな、というふうに思います。まとまりませんが、以上です。

○佐藤洋樹市長：

委員の皆さんからいろいろ意見をいただきました。前回の総合教育会議の時よりも、いろいろその半年以上の経過があって、皆さんの方から、こういった多彩なお考えが出たのかなというふうに思います。教育長のほうから、各委員からもいろいろご指摘であったり、ご意見であったり、ご提案なんかもありました。これも含めてお話いただきたいと思います。

○佐藤志津男教育長：

本当にいろんな面からご意見をいただきまして、ありがとうございます。何点かまとめた形で、お話しさせていただきたいと思います。

まず一つ。地域から学校がなくなると地域が廃れてしまう、というふうなことについて、委員の方からも、いろんな面からご意見いただきましたし、また説明会でも、そういった意見はたくさんありました。ただやっぱり、委員の方もおっしゃられておりましたけれども、学校が地域のコミュニティーにおいて果たしてきた役割というのは、とても大きいと思うんですね。ただ人口減少とか、少子化が今、加速度的に進んでいる中で、学校教育も、そして学校と地域との関わりというものの意識も、変わっていかねばならない部分というのはあるんだと思います。一番大事なことは、「子どもたちをどう育てていくのか」ということだと思うんですね。これから社会の変化が極めて激しくて、それこそ近い未来も予測がなかなか難しいような、そういった社会を、これからの子どもたちは生きていかねばならないと。やっぱりそこで大事なものは、自分自身の良さを自分で自覚すること。ですから、そういったことから、先ほど「世界に羽ばたく」という話もありましたが、「自分には、こういういいところがあるから、世界に羽ばたいてみよう」というふうなことにも繋がるんだと思いますし、また、一人じゃなくていろんな人と交流しながら意見を出し合って、「あ！こういう風にしたらいいのか」なんていう風に、より良いものを見つけしていく力がとっても大事だし、そうした力があってこそ、持続可能な社会の担い手になっていけるのだと思います。そこで考えたときに、小中学生に大事な環境というのはどういうものかとい

うと、やっぱり学校の中だけでなく、地域の人たちとか、企業の人たちとか、いろんな大人と関わって、そしてその中で経験を積み重ねて成長していくことが大事かなと思います。そういう意味では、何人かの委員の方からもありました「コミュニティ・スクール」をどう活用していくか、ということが、すごく大事なことなんだろうなと思いますし、寒河江市で今年度からやっている「さがえ未来コンソーシアム」の活動というのものも、そういった活動を後押ししていけるんじゃないかなというふうに思います。市内の小中学校は全てコミュニティ・スクールを導入しています。活用の仕方は、それぞれですけれども、コミュニティ・スクールというのは、地域から支援を受けるだけでなく、学校が地域にどう貢献できるかということも重要だというふうに思います。そういった活動や経験が、地域に愛着を持つ子どもを育てるということにも繋がるんだと思います。既に実施している学校もありますけれども、地域の方々からご協力いただいて、例えばボランティアとして学校に入ってもらって、子ども達と活動を共にしていくと。また逆に、子どもたちが地域に出て行って、先程の醍醐小学校の観光案内なんかもそうだと思うんですけど。そして、地域のことを幅広く学んだり、実体験として活動したり、地域のために自分たちができる活動を行うということがとても大事だと思います。例えばもっと日常的なことでも、地区で年2回ぐらい朝清掃活動とかがあると思うんですけど、そうしたことも大人と一緒にやるなんていうことだけだって、すごく子どもにとっては地域への愛着に繋がっていくんじゃないかなと思います。コミュニティ・スクールで、私がすごくいいなと思うのは、「地域の人たちが、自分たちのために活動してくれている」という姿を、子ども達が見られるということだと思うんですね。そして先程のように、地域のために自分達が何かをすれば、大人の人から「ありがとう」とか「助かるちゃあ」とか認めてもらえる。そういった体験というものが、やっぱり子どもが育つ重要な要素になっていくんだろうなというふうに思います。今どこの市町村でも人口減少という大きな課題を抱えている訳ですけれども、学校と地域が共通の課題意識とか問題意識を持って、こうしたコミュニティ・スクールや様々な活動を通して、「将来地域に貢献したい」「寒河江に住みたい」というふうな気持ちを持つ子どもたちを育てていくことが重要なことではないかというふうに思います。

あと先程、「人づくり、地域づくり」というようなお話がありました。本当にとっても大事なことだと思いますし、いろんな提案をしたりチャレンジをしたりして、それこそ寒河江から世界へ羽ばたいていくと。やっぱりそうした子ども達が、そうした若者になっていくためには、小中学校の時にそういった体験をすることが大事だと思うんですね。そのためには、ある程度多い人数の中で、いろんな人と話をしたり、切磋琢磨したりというふうなことがとても大事なことかなというふうに思います。先ほど大沼委員から致道館の学習で、自発学習、個性伸長、討論というのがありましたけれども、実はこれは今の学習指導要領も、これそのものかなというふうに思います。つまり、今、学習指導要領で大事にしていることは「個別最適な学び」ということなんですね。つまり自分で自分に合った学びを作っていく。つまりこれは個性伸長だし、求められるのは学びに向かう人間性ということで、やっぱりこれは自発学習だし、そして協働的な学びということがもう一つ大事なんですけれども、これはまさしくゼミナールであったり、討論であったりということだと思うんですね。やっぱり、そういうことをしっかり若い時から体験としてやっていければ、大人になった時も、例えば「うちの地域は、こうだけど、じゃあどうすっどいいべね」って、何人か集まって話をしてより良いものにもっていける、なんてことにも繋がっていくのかなとい

うふうに思いました。

中学校の統合については、特に1校案2校案それぞれご意見があつて、なかなかまとまりづらい部分がある訳ですが、先程ありましたように、デメリットの解消策ということが、私もとても大事なことだと思います。そうしたことも、分かりやすく説明をしていながら、ご理解を頂いていく必要があると感じているところです。

今日も「いろんな立場で、いろんな地域の人には、いろんな意見がある」というふうなことがありましたけれども、説明会をしていると、そのまとめ方ということが、すごく大事なポイントだというふうに思っておりまして、どういった形で、いただいた意見をまとめていくか、また、再度決定をしていくまでのスケジュールをどうしていくのかということ、今、再編整備室の方でも、他の県の事例などもいろいろ勉強しながら考えているところですので、いつまでも先延ばしということはできないと思いますけれども、その辺のスケジュール、意見のまとめ方についても、もう少し時間をいただきながら対応して行って、そしてこれまで説明会等でいただいたご意見等を考慮しながら、子ども達にとってより良いものになるようにしていきたいなと思っております。

皆さん共通して言われていたのが、「複合的な施設で、ワクワクするような夢があるようなものを作ってはどうか」ということでした。また「施設との複合化によって、他の年代の方々との交流とか、地域の方々との交流がよりしやすくなる」ということ。やはり、そういうこともその通りだと思うんですね。そういったことを考えたときに、やっぱり教育委員会だけじゃなくて、市の公共施設等の総合管理計画とか個別施設計画等とも擦り合わせをしながら、検討していく必要があるなというふうに思ったところです。いろんなご意見ありがとうございました。以上です。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございます。では教育長さん、ご意見が出た中で「複式学級が増えていく」ということについて、教育委員会としての考え方は、どういう風になってるのか。それから國井委員からもありましたけれども、要するに中学生とか高校生ぐらいの、現役っていうか、若い人たちが、この体験的に学校の再編っていうものに対してどういうふうに思っているか、などということについて、意見を聞くことについてどういうふうに思っているのかということも含めて、お聞かせ頂きたいと思っております。

○佐藤志津男教育長：

わかりました。複式に関しては、良いところも確かにありますし、ただ、今私が授業とかを見ている中では、やっぱり教員の負担も大きいなあとということもあります。「もっとここで教員が関わると学びがより広まったりするだろうな」と思うような部分もあります。ただ、その小さい集団の中ですけれども、その中でいわゆる間接指導、自分たちでの学びの時には、その中の子どもの誰かがリーダー的な役割などを果たしながら学習を進めていくなんでいう、そういう風な体験もそれはそれで、貴重な体験であるというふうに考えています。ですから、基本的には複式の早期解消というふうな方向性で行くということは大事だと思いますけれども、それは全体的な計画の中で考えていかななくてはならないかな、というふうに思っております。

あと中学生とか高校生の意見ということで、やはり今までそういった意見を聞く場というよう

なことはなかった訳で、どういった形でやれるか、やった方がいいのかということも検討したいなと思います。

○佐藤洋樹市長：

皆さんの方から。どうぞ。

○鈴木多鶴子委員：

先程、意見の中で出したんですけれども、中学校1校に統合した場合のデメリットが21ページにありますけれども、今の時点で、「こういった対応をしていく」というようなことがありましたらお聞かせ願いたいと思います。というのも、私、主任児童員もしてまして、福祉関係で中学校の生徒さんで、なかなか学校に行けないとか、そういったお子さんも結構います。小学校もですけれども、中学校もいます。全欠のお子さんもいます。そういったことにならないように、やっぱり前もって、小学校からなんでしょうけども、前もって学校でも居場所があるとか、大勢の中でも大事にされているっていう風に思えるところ、居心地のいい場所、「学校っていいなあ」と思える場所をぜひ作っていただきたいと思うので、なおさら思うんですけれども、このデメリットに対しての今の時点での解消法っていうのをお聞かせ願えればと思います。

○佐藤志津男教育長：

やはり学校に居場所があるというのは、周りの人たちからも認められているというか、自己肯定感を持てるということが大事なと思うんですね。やはり学校というのは、授業の時間が全体の7割8割ぐらいを占める訳です。大規模校であろうが小さい学校であろうが、やはり1つのクラスの中での人数というのは、基本変わらない訳ですね。ですから、そのクラスの授業の中でどのような関わりとといいますか、活躍とといいますか、そういったことができるかということが大きく関わってくるのかなと思います。今までの学校というのは、教室があって廊下があって特別教室があってみたいな形で、先程もありましたように、机も大きくなってなかなか狭い状況であるということでしたけども、これからの新しい学校というのは、廊下も学びの場というふうなことで、学校施設全体が学びの場であると。だから例えば、教室の外で何人かグループで話をして、何かを提案するとか、そうした活動なんかもどんどん取り入れていきながら、いろんな授業の中で子どもたちがそれぞれ得意なもので存在感を感じられるとか、そういったことが一つかなと思います。

あと、私も河北中学校の時、960人の学校にいましたけれども、やっぱり学年行事とか学校行事というのは、すごくダイナミックなんですね。一見すると何人かのリーダーで、進めているんじゃないかって見えるかもしれないんですけれども、実際は、一人一人が頑張ってるからこそ、そういったダイナミックで感動的な行事も経験できるんだと思います。そうしたいろんな場で、自分なりの存在感を発揮したり、満足感を得たりというふうなことを意識的に組んでいったり、そしてそのことについて、教師が意図的に声がけをしたりというふうなことが、すごく大事なことかなと思います。それがこのデメリットへの一つの対応策でもあるというふうに思います。以上です。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございます。その他はいかがですか。

○鈴木多鶴子委員：

そうやってみんなと一緒にやっていける生徒さんは心配ないと思うんですけども、すごく周りのこととか、いろんなものを受け止めて、なかなかみんなと馴染めなかったり、すごく敏感な生徒さんだったりした時の対応も考えていかないと、みんながみんなそうやって一致団結してやれるっていう訳ではないので、そういった細かい対応もしていかないといけないことになるのかなと思います。学校設備もそうなんですけれども、この教員やサポートの人たちも含めて、そういったきめ細かな対応を、大きい学校になればなるほど必要になっていくのではないかなっていうふうに思いますので、その辺も考えて頂ければと思います。

○鈴木淳一委員：

整備計画の説明資料ですが、今後また内容が変わるかもしれませんが、その時にはぜひ部活動の地域移行についても掲載していただければと思います。

○佐藤洋樹市長：

その辺の動きっていうのはどうなってるんですかね。

○佐藤志津男教育長：

では、担当の方から。大竹室長、部活動の地域移行についての動きについて。

○大竹純指導推進室長：

先日、マスコミの報道にあったとおり、県教委の方から、今の中学校での部活動については、土日は行わない。平日のみとするっていう方針が発表されました。寒河江市の方向としても、そういった国、県の流れを見ながら進めていくことを考えておりますので、令和5、6、7の3年間で、そちらの方に向かっていくっていうその流れに合わせて動いております。今年度からスポーツ協会の代表の方であったり、スポーツ少年団で頑張ってくださっている方、それから芸文協の代表の方など、様々な各種団体の方々も交えた、部活動をこれからどうしていくかということについて話し合う会議を行っているところです。4回予定していて、2回終わって今度まもなく3回目で、県の方針とか国の方針がだんだん定まってきましたので、そのことについての理解と、それを推進していく上での課題を洗いざらいそれぞれの立場からお聞きして、より良いものを目指していくというような方向で、これから来年度からさらに3年かけて作り上げていくというような流れで考えています。

○佐藤洋樹市長：

その他どうですか。

私、中学校の案が3つあるんですけどね、その公共施設をこうブッキングしてっていうのは、先ほどのお話聞くと非常に夢あるような印象を与えるんですけど、ある程度具体的にしていかな

いと、その絵に描いた餅みたいになっていってもいかなものかなと思ってるんだけど、そういう所はあれですかね、例えば、これを今年度中あたりにまとめていくということにするんだとすると、そこはまた難しいものなんじゃないですかね。どうなんですかね。

○佐藤志津男教育長：

市長がおっしゃられたように、やっぱりそういったことを考えた時に、今年度中にまとめるというのは難しいなあというふうに思っています。

○佐藤洋樹市長：

そうですね。なかなかこう抽象的だと、どうなのかなっていうふうに思いますよね。要するに、これからいろいろ決めていく方法などについても、いろいろ検討するっていうお話だったんで、まあ一回決めたんですけどね。もう一回こうやっている訳ですが。そういうので、例えば案Aがいいとか、案Bがいいとか。B案だとすると、こうはっきり「B案でいこう」なんていうふうには、なかなか難しいのかなと思ってますけどね。希望してもなかなかその通りに、公共施設ができるかどうかというの、正直な話それは難しいですよ。統合するので、統合の理由っていうのは、「子どもたちが少なくなっている」ということと、「学校もだいたい老朽化してきている」というのが一義的な原因なんですけども、やっぱりできる限り統合していく際には、やっぱりマイナスのイメージっていうのを、この際、やっぱりいい物、いい学校にしてもらいたいっていう気持ちは、やっぱり保護者の皆さんとかね、子どもたちもそうかもしれませんが、そういう気持ちでいるのかなと。そうじゃないと、やっぱり見直す意味もないと思いますし、あとはやっぱり小学校と中学校同じような考え方で整理していく、まとめていくっていうことだけじゃなくて、皆さんの意見からすると、小学校は小学校なりの整理の仕方、あるいは中学校は中学校としての整理の仕方が若干違うような整理の仕方もあるのではないかっていうふうに私も思いましたので、その辺は、これからまた、これからも説明会でご意見聞く場面があるんですか。

○佐藤志津男教育長：

まずは、これまでお聞きしてきたんですけども、これからどういった形で決めていくかという中で、どうしていくかということも考えていかなければならないと思っています。

○佐藤洋樹市長：

それは教育委員会の中でもいろいろ皆さんのご意見を頂戴しながらですね、言っていただければなあというふうに思いますので、よろしく願いをいたしたいというふうに思います。こういう話し合いのテーマに則した内容になってるのかどうかよくわかりませんがね、学校の整備計画の見直しについての話し合いということでご意見を頂戴しましたので、市側とすれば、その他の公共施設もやっぱりセットで前から議論になっておりますけれど、街づくりという観点も踏まえた上での学校の整備ということも、やっぱり大事ですから、そこら辺も踏まえて地域の活性化を維持していく、あるいはさらに充実をしていくか、っていう視点からですね、学校の整備についても、みていくっていうか、整えていくっていうことが必要だというふうに思っておりますので、これからもいろいろ議論させていただければなあというふうに思いますので、よろしくお願いま

す。そろそろ時間でありますので、以上で学校について、寒河江市学校施設整備計画についての話し合いを終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

4 その他

5 閉 会 午後5時00分